

### 3 学期 期間集会 校長講話要旨

#### ○私たちの「常識」を捨てよう

2 月に入りました。3 日の節分も終え、現代の日本はこれから春を迎えます。節分は立春の前日に当たり、冬から春への季節の節目を意味しています。立春を新年の始まりとする考え方で、立春の前日である節分には邪気払いとして、「鬼は外、福は内」など鬼を追い出す豆まきが行われます。

もともとは、二十四節気で春夏秋冬それぞれの季節の始まりである「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日すべてが、季節を分ける「節分」と呼ばれていました。しかし、いつの間にか最も大切にされてきた立春の前日のみを「節分」と呼ぶようになりました。

ところで、旧暦では、今年は2月17日が新年ということになります。これは現在日本で使用している暦はグレゴリオ暦といい、太陽の進行に合わせた暦ですが、旧暦は月の進行に合わせた暦なので、大体1か月程度ずれることがあります。

去年は旧暦の年明けは1月29日でしたが、今年は特にそのずれが大きく、2月も半ば過ぎが旧暦の新年になります。中国や台湾では2月17日が正月、春節で、ここから年始の休日が始まります。

アフリカのキリスト教の国エチオピアでは、また暦が違います。1年365日というのは変わりませんが、1月1日が9月中旬に始まり、1年は13か月になります。毎月30日きっかりで月が変わり、余った5～6日が13月。さらにイエス＝キリストの生誕年について異なる解釈を持っているために、現在のグレゴリオ暦とも7～8年のズレが生じ、エチオピア暦では現在は2018年です。

以前からお話ししているように、私たちが当たり前と思っていることや「常識」がすべて通じるものではなく、世界にはイスラム教徒やエチオピアなど全く違う時間軸で生活している人々が多いのです。これは暦や生活習慣のみならず、その土地に行ってみないとわからないことが沢山あります。

哲学館・東洋大学を創立した井上円了先生は、3回世界周遊の旅に出かけました。最初の欧米視察で「海外のことは日本にいて想像するだけではなく、実際に見て体験しないとわからない」として、「体感」の必要性を実感され、現実世界を活きたテキストとして学び、活きた学問とする「活書活学」を提唱されました。

国際理解、異文化理解は、実際に体験しないとわかりません。ですから、本校では中高一貫コースでは、オーストラリアのホームステイはじめ、フィリピンやシンガポールなど海外の研修に行きました。グローバルコースもオーストラリアでもホームステイをしました。特進コースはオーストラリアの大学での研修を行いました。

進学コースとスポーツサイエンスコースは、この3月にベトナムや九州への修学旅行を予定しています。体験先は海外だけではなく、日本国内でも様々な自然環境があり、私たちが暮らす関東地方とは違う体験ができるはずです。様々な体験的な活動から何かを学び取ってほしいと願っています。これは「多様性の尊重」につながることです。

## ○普遍的な価値を求めて

現在の国際情勢を見れば、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、トランプ大統領の仲介も掛け声だけで未だに終わりが見えません。また、東地中海・西アジア地域、いわゆる中東世界では、イスラエルとパレスチナの紛争は2年を超え、停戦協定は結ばれましたが予断は許されません。欧米の主要国等においても自分の国の利益や、自国民のことのみに最優先する風潮・ナショナリズムが強くなりつつあります。

多文化共生、グローバリゼーションが進展した現代に生きる私たち「地球市民」が本来求めるものは、帝国主義や自国優先の孤立主義ではなく、国際協調であり、戦争のない平和な世界であるはずです。

日本国憲法前文の末尾には、「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。」と結ばれています。

この理想の実現のために、本校での学びや、体験活動の中から、異なる文化を尊重しつつ人類共通の目標を求めてほしいと願います。

## ○冬季オリンピック開催

イタリアのミラノとコルティナ・ダンペッツォの2都市を中心に、第25回冬季オリンピック「ミラノコルティナオリンピック2026」が、現地時間の今日2月6日に開幕します。この2つの都市はおよそ250km離れていますが、複数の都市による共同開催は史上初です。これは、『1国1都市』を原則としたオリンピック憲章の改定で、共催が可能になりました。

競技はすでに、カーリングやスノーボード、アイスホッケーなどが4日から始まっていますが、開会式は2月6日で22日までの19日間、8競技116種目が行われる予定です。日本選手の活躍を期待しましょう。